

これからのとりくみ

市では次の5つの取り組みを進めていきます。

- 1 産卵場所（湧き水）を守り増やす
- 2 すみかとなる森をつくる
- 3 調査を続ける
- 4 市民が参加できる活動を増やす
- 5 外来種から守る



わたしたちにできること

トウキョウサンショウウオを守るためにわたしたちができること



- 知る
トウキョウサンショウウオのことを知ることが、守る第一歩。さらに、緑地にも目を向けてみましょう。
- 狭山緑地の保全活動に参加する
狭山緑地で行っている保全活動に参加して、自然のつながりやその大切さを体験しましょう。
- 伝える
「こんな生きものがあるんだよ」そのひとことが、未来を守る力になります。

法律でも守られています

トウキョウサンショウウオは、
国が定める**特定第二種国内希少野生動植物種**※
に指定されています。販売や頒布を目的とした捕獲や譲渡が規制
されています。それ以外でも、むやみに捕まえるのはやめましょう。

※「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」に基づき里地里山の絶滅危惧種を
主な対象にして指定され、販売・頒布に係る捕獲、譲渡し等の行為のみが規制されます。



お問合せ

東大和市
環境対策課 環境公害係
〒207-8585 東京都東大和市中央3-930
電話：042-563-2111（内線：1248）
ファックス：042-563-5931

HP

SNS(X)



作成・編集

特定非営利活動法人 NPO birth

参考資料

環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室
特定第二種国内希少野生動植物種 トウキョウサンショウウオ
<https://www.env.go.jp/content/900491898.pdf>

東大和市

トウキョウ

サンショウウオ

みらい

未来へ

つなごう

みんなで育む、あしもの小さな命

トウキョウサンショウウオとは？

トウキョウサンショウウオは、日本だけに住んでいる小さな両生類です。群馬県と茨城県をのぞく関東地方に住んでいます(※)。昔は都内の丘陵地にも多くいましたが、今は住む場所が減り、数も少なくなっています。

東大和市の狭山緑地は、都内で一番東にある貴重な生息地です。市では、この小さな生きものを守るためにいろいろな活動をしています。

※イワキサンショウウオが命名されて以降の分類です

トウキョウサンショウウオって どんな生きもの？

体は濃い茶色で、銀色の斑点はんてんがあります。
大きさは10cmくらいです。
幼生ようせい（こども）のころはミジンコなどを、
陸に上がってからはミミズやダンゴムシなどを食べます。

実際の大きさ



上陸

半年で陸に上がり、
3~5年で成体（おとな）
になります

成体

落ち葉の下や小動物が作った
トンネルで暮らします



くらしのサイクル

一生の中で、水辺と森の両方を使ってくらしします。

普段は森の中の落ち葉の下や小動物の作ったトンネルで暮らしています。
繁殖期はんしょくき（1~4月）になると水辺に集まり、クロワッサン型の卵を1対産みます。
ふ化した幼生は水の中で成長し、夏から秋にかけて陸に上がります。
3~5年で成体（おとな）になり、また落ち葉の下や穴の中で暮らします。

産卵さんらん（成体）

1~4月ごろに
水辺で卵を産みます

卵らんのう

1対に平均50~120個の
卵が入っています

幼生

水の中で成長します



東大和市が行っているとりくみ

東大和市では、次の4つの活動でトウキョウサンショウウオを守っています。

1 卵や幼生の飼育



卵を回収して一時的に育て、陸に
上がるまで成長させたあと、元の
場所に戻します。

2 小学校との連携



市内の小学校でも飼育を行い、子
どもたちが観察しながら地域の自然に
ついて学べる機会を作っています。

3 調査と環境の整備



産卵数や湧き水の量を調べながら、
産卵場所やすみかの森を整備し作っ
ています。

4 外来種対策



卵や成体を食べてしまうアライグマなど
の外来種の捕獲ほかくや対策たいさくを行い、トウキョ
ウサンショウウオたちを守っています。

